

## 令和5年度学校評価（前半）を振り返って

## 学校評価にご協力ありがとうございました。

令和5年度学校評価（前半）の集計結果をお知らせします。先日は保護者の皆様、児童（低、高学年別）、教職員による評価（振り返り）のアンケート（インターネットを利用した回答形式）にご協力いただき、ありがとうございました。

洛央小学校では、「一人ひとりを大切に 心ゆたかに たくましく生き抜いていく子を育てる～気づき、考え、判断し、行動できる子の育成～」を教育目標とし、教育活動を進めています。今年度は昨年度と質問内容を一部変更して実施しています。今回の集計結果を真摯に受け止め、2学期以降の教育活動の改善に繋げていくように活用させていただきたいと考えています。

- ①子どもは、友達の考えや思いを聞いて理解しようとしていると思われませんか。（保護者）**  
**話し合うときに、相手の考えや思いを最後まで聞いて分かったとすることができましたか。（児童）**  
**子どもは、友達の考えや思いを聞いて理解しようとしていると思われませんか。（教職員）**

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	36%	57%	6%	1%
児童（高学年）	48%	47%	5%	0%
児童（低学年）	68%	23%	8%	1%
教職員	17%	61%	16%	6%

「人の話を聞く」ことについて、「保護者」・「児童」の9割以上の回答者が、「そう思う」「大体そう思う」と答えていました。一方で、「教職員」で「そう思う」・「大体そう思う」と回答したのは約8割で、まだ洛央校の子どもたちの聞く力の伸びしろがあると感じています。

洛央小学校では、様々な教科等の学習において、「お互いの考えや気持ちを伝え合う活動」に重点を置いております。この3年間の様々な制限が解除され、子どもたちは他者と触れ合う機会が増えています。従って、これまで以上に「相手の思いをしっかりと聞き、理解を深めようとする意識」が大切になります。同時に、周りを取り巻く大人たちが子どもの話をしっかりと聞くことも大切だと考えています。安心して話せる環境づくりを心がけながら、子どもたちが多様な人々とコミュニケーションを取り、互いの考えや思いを聞くことで、より視野を広げたり、学びを深めたりしていけるように取り組んでいきたいです。

- ②子どもは、自分の考えや思いを伝えようとしていると思われませんか。（保護者）**  
**話し合うときに、自分の考えや思いを相手に分かるように伝えようすることができましたか。（児童）**  
**子どもは、自分の考えや思いを伝えようとしていると思われませんか。（教職員）**

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	29%	58%	11%	2%
児童（高学年）	50%	38%	10%	2%
児童（低学年）	62%	27%	8%	3%
教職員	18%	68%	12%	2%

「自分の考えや思いを話すことができる」については、85%程度の回答者が「そう思う」「大体そう思う」という結果でした。これは昨年度の同時期の設問と比べると上昇しており、伝えようとする活動に自信をもつ子どもたちが増えていることがうかがえます。制限が解除され、少しずつ友達とコミュニケーションをとる機会ができたことで、自分の思いを伝える楽しさを感じているとも捉えられます。

一方で、設問①の項目と比較すると、子どもたちにとっては「相手の話を聞く」ことよりも「自分の考えや思いを話すこと」に対して苦手意識や不安感を抱いている子どもが多くいます。そんな子どもたちの中には、どのように話せばよいのか分からない不安を感じている子どもたちがいるのも事実です。少しずつでも話す機会を増や

していくことで、子どもたちが自信をもち、よりよく話せるようになっていくと考えています。子どもたちが自ら話したいと思えるような学習場面、活動をこれからも設定し続けていきます。

**③子どもは家庭学習について、計画を立てて進めることができていると思われませんか。(保護者)**  
**家庭学習は、計画を立てて進めることができましたか。(児童)**  
**子どもは家庭学習について、計画を立てて進めることができていると思われませんか。(教職員)**

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	16%	51%	25%	8%
児童 (高学年)	40%	41%	14%	5%
児童 (低学年)	59%	24%	9%	8%
教職員	7%	77%	14%	2%

「家庭学習」については7割から8割の回答者が「そう思う」「大体そう思う」という結果でした。一方で、保護者の回答は30%程度が「そう思わない」「あまりそう思わない」になっていました。

今年度、新たに本設問「家庭学習」についての内容を加えました。子どもたちが、これから大人になって社会を生き抜いていくためにも、自ら問題を見つけ、解決していく力を養っていきたくと考えています。その一端として、自主的に家庭学習に取り組む力を伸ばしていきたいものです。本校では各学年に応じて、自主学习等、国語・算数にとらわれない幅広い分野の取組を進めていくことで、子どもたちそれぞれが個々に興味・関心を広げていけるように意識しています。また、同じ下京中学ブロックにおいて、家庭での自主学習の力育てていく計画を学校間で共有して進めているところです。今後もこの力を伸ばしていけるように工夫してまいります。

**④子どもは、自分や友達を大切にできていたと思われませんか。(保護者)**  
**自分や友達を大切にできましたか。(児童)**  
**子どもは、自分や友達を大切にできていたと思われませんか。(教職員)**

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	44%	51%	5%	0%
児童 (高学年)	69%	25%	4%	2%
児童 (低学年)	79%	18%	2%	1%
教職員	21%	68%	7%	4%

「友達を大切にすること」については、約9割が「そう思う」「大体そう思う」という回答結果でした。昨年度も同様の結果で、継続していることを非常にうれしく思います。

今年度は、小グループでの話し合い活動や課題グループでの活動、給食や掃除などの当番活動、たてわりグループや係の活動、委員会やクラブ活動、そして、全校でかかわる児童集会において、同学年や異年齢の友達と力を合わせたり、意見を交流しあったり、活動を共にしたりする場面を増やしていきました。2学期以降は、スポーツフェスティバルやハートフル洛央のような学校行事においても、異年齢の子どもたちとかかわる時間を設定していきます。意見がぶつかることももちろんありますが、お互いにとってよりよい方向性を探り、一緒になって課題達成に向けて協力していく体験は、本校が子どもたちにつけていきたい力の育成に大きくかかわってきます。今後も友達と力を合わせる機会を検討していきたいと思えます。

**⑤子どもは進んで運動をしていますか。(保護者)**  
**進んで運動をしていますか。(児童)**  
**子どもは進んで運動をしていますか。(教職員)**

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	38%	33%	25%	4%
児童 (高学年)	45%	32%	16%	7%
児童 (低学年)	68%	20%	9%	3%
教職員	23%	73%	2%	2%

「進んで運動すること」については、「そう思う」と回答した割合が立場によって様々でした。低学年児童

は、約70%が「そう思う」という回答でしたが、高学年児童では45%とやや低調でした。ただし、「大体そう思う」を含めると、どちらも約8割の児童が運動していると回答していました。

健やかな成長のためには、一定の運動をすることも大切です。昨年度から、朝時間や放課後の時間に校庭開放する時間を設定しています。また、1学期は、児童会の子を中心になわとびを使った運動を企画し、運営してくれました。校庭で遊べる時間には、笑顔で元気に駆け回る姿が見られ、体を動かす楽しさを子どもたちは感じているようです。休み時間や体育の学習はもちろん、進んで運動できるような取組を今後も考えていきたいと思ひます。

<b>⑥子どもは好き嫌いせずバランスよく食べていますか。(保護者)</b>				
<b>好き嫌いなく給食が食べられていますか。(児童)</b>				
<b>子どもは好き嫌いせずバランスよく食べていますか。(教職員)</b>				
	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	30%	43%	23%	4%
児童(高学年)	53%	29%	13%	5%
児童(低学年)	67%	18%	9%	6%
教職員	6%	73%	21%	0%

「好き嫌いせずバランスよく食べること」については「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した保護者が約27%、高学年児童が約18%、低学年児童が約15%でした。「そう思わない」割合が依然高く、今後も改善の意識を伸ばしていきたいところです。

成長をしていく上で、食事は大切な要素の一つです。学校給食では栄養のバランスを考慮して献立を作成しています。また、栄養教諭が中心となり、食に興味を持てるように食育指導を工夫しています。さらに、給食後の児童の感想を取り入れ、子どもたちがおいしいと感じたり、苦手でも頑張って食べられたりした体験を学校全体で共有したりする取組を実施しています。教職員における「そう思う」と回答している割合が6%であることも踏まえ、今後も学校と家庭とが連携してよりよい食事ができるよう支援指導していきたいと思ひます。

<b>⑦子どもは、毎日必ず朝ごはんを食べていますか。(保護者)</b>				
<b>毎日必ず朝ごはんを食べていますか。(児童)</b>				
<b>子どもは、毎日必ず朝ごはんを食べていますか。(教職員)</b>				
	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	84%	12%	3%	1%
児童(高学年)	79%	13%	5%	3%
児童(低学年)	88%	9%	2%	1%
教職員	20%	78%	2%	0%

「朝ごはんを食べている」という設問については、保護者・児童ともに「そう思う」「大体そう思う」という回答が9割以上という結果で、昨年度からの高い数値が継続されています。家庭でも朝食の大切さを理解していただき、普段から朝食を子どもたちに食べさせて学校に登校させてくださっていることを、ありがたく思っております。

一方、一部の児童の中には朝ごはんを食べずに登校している様子が見られます。「朝食は一日の活力の土台」といえます。また、成長期の子どもたちにとって重要なエネルギー源です。毎日、朝食を食べて一日がスタートできるように、ご家庭でのご準備をよろしくお願ひいたします。学校でも、今後の指導を引き続き大切にしていきたいと思ひます。

<b>⑧子どもは登下校時も含め、安全に生活できていますか。(保護者)</b>				
<b>登下校などで、自分も人も安全にすごせるように生活できていますか。(児童)</b>				
<b>子どもは登下校時も含め、安全に生活できていますか。(教職員)</b>				
	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	50%	45%	4%	1%
児童(高学年)	67%	29%	3%	1%
児童(低学年)	74%	21%	4%	1%
教職員	16%	74%	10%	0%

「安全に気を付けて生活すること」については、9割以上が「そう思う」「大体そう思う」という回答でした。

日常生活の中で、「安全に気を付ける」という場面は数多くあります。実験や工作において、器具を正しく扱ったり手順を確認したりすること、調理実習で火傷に注意すること、運動中に周りの様子を確認すること、廊下を走らずに歩くことなど学校の場面でも様々な場面で安全に気を付けて生活をしています。

中でも、交通安全については十分な注意を払ってほしいと思います。事故が起きてしまってからでは取り返しがつきません。ついつい友達との会話が弾み、歩道を走ってしまったり、歩道から外れてしまったりしている児童の姿を見かけることもあります。安全に対する高い意識を実際の行動に表すことができるよう、1学期の早い時期から、低学年を中心に、警察や地域の方による安全についての歩道歩行体験や人形劇鑑賞、自転車乗車体験を行いました。来年度も指導を続けていきたいと思っています。また、警察や子ども見守りたい、PTAなどの皆様とも協力する取組も同様に進めていければと考えています。

**⑨子どもは、自分で目標をたて、その目標を達成しようと行動に移すことができますか。(保護者)**

**自分で目標をたて、実行していくことができましたか。(児童)**

**子どもは、自分で目標をたて、その目標を達成しようと行動に移すことができますか。(教職員)**

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	24%	47%	23%	6%
児童(高学年)	39%	40%	17%	4%
児童(低学年)	56%	32%	9%	3%
教職員	11%	70%	13%	6%

「目標をもってがんばること」については「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した保護者で約29%、高学年児童が約21%、低学年児童で約12%、教職員で約19%でした。昨年度同時期の設問と比べると、「そう思う」「大体そう思う」の回答が減少しており、子どもたちが目標をもってチャレンジしていく活動に少し難しさを感じているようです。

京都市では「生き方探究パスポート」の運用を進めています。子どもたちが「なりたい自分」に向かって、自分をじっくりと見つめる大切さを感じさせることがねらいです。自分の良さや得意なことを自覚し、自分の成長を見つめることで将来の目標にも意識を向ける機会になればと思います。

コロナによる制限が解除され、他者とのかかわるいろいろな活動が再開されています。それらの活動で積極的な挑戦をしていくことができる反面、初めてのことに對して、自発的にかかわる難しさを子どもたちが感じているのかもしれません。授業では、どんなことを学習するのか、どんなことを目指すのか、どのような力を付けていきたいのかを児童に示すことで、子どもたちに見通しをもたせ、「よし、やってみよう!」と主体的に取り組んでいける活動をしていきたいと思っています。ご家庭でも学習や生活の中での目標についてお話していただく機会をもっていただければありがたいです。

**⑩子どもはあいさつを自分から進んでできていると思われませんか。(保護者)**

**あいさつを自分から進んでできていますか。(児童)**

**子どもはあいさつを自分から進んでできていると思われませんか。(教職員)**

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	29%	48%	19%	4%
児童(高学年)	55%	33%	8%	4%
児童(低学年)	71%	18%	8%	3%
教職員	15%	69%	12%	4%

「自分からあいさつをする」という設問に関しては、立場によってばらつきが見られました。特に「そう思う」と答えている人が「児童」と「大人(保護者・教職員)」で差があり、認識のズレがありました。

人からあいさつをされた時、必ずあいさつを返すはずですが、これは人としてのマナーといえます。しかし、それであいさつをしたと感じている子どもたちも多いのかもしれません。「自分からすすんで」という言葉の通り、「人からあいさつをされる前に、先にこちらからあいさつができる」ことは、相手に親近感を抱かせ、コミュニケーションがとりやすくなります。今年度も児童会を中心にあいさつ運動を展開しています。「あいさつは人間関係づくりの第一歩」という言葉にもあるように、自分から進んであいさつができる、そんな子どもたちを育てていきたいと思っています。